

# 人生の大切な節目に寄り添い、 心をこめたセレモニーをプロ デュースする



**TP TOP INTERVIEW**

株式会社 はちまんだい 八幡台やまたまや  
代表取締役社長 ひる た こう 蛭田 剛

福島県と茨城県を主な営業エリアとして広域に冠婚葬祭事業を展開する株式会社八幡台やまたまや（本社：福島県いわき市）の蛭田剛社長に、会社設立の

経緯や事業内容、人材の確保・育成、環境への取り組みや地域貢献、さらに経営理念について伺いました。

（聞き手：弊社社長 大森 範久）

## 屋号は創業者の出身地に由来。一つひとつの出会いを大切に。

会社設立の経緯についてお聞かせください。

**社長** 弊社は、先代社長 蛭田隆が1973年（昭和48年）に創業しました。ただ、実際には戦前に祖父が「山玉家商店」を開いたのが始まりです。

当時のいわきは常磐炭鉱の町として栄えていたので、炭鉱のある山の近くで商売をしていましたが、炭鉱閉鎖に伴い、町中へ移転することになりました。

その後、先代社長の蛭田隆が妻である現会長の蛭田房子と二人で商店を切り盛りするようになりました。仕出しのご注文をいただくと、当初は他の料理店に

お願いして作ってもらった仕出し料理を、お客さまのもとへお届けしていました。

ところが、ある時お客さまから「これは『山玉家の料理』じゃない。次からは、山玉家でつくった料理を届けてほしい」とお叱りを受けました。その一言が大きなきっかけとなり、先代は一から料理を学び、自社で本格的な料理提供を始めました。これが、現在の婚礼3施設・葬祭20施設を展開する事業の原点となっています。

お客さまのニーズに応えるため、自前で仕出し料理を提供するようになったのですね。

**社長** その通りです。やがて祭事は、自宅に人を招き仕出しを頼んで配膳する従来のスタイルから、手間をかけずに集会場や市民会館で行うスタイルが主流になっていきました。こうした流れを受け、1980年（昭和55年）に弊社は結婚式場「八幡台やまたまや」を建設しました。

弊社の屋号は、もともと祖父の出身地名に由来する漢字表記の「山玉家」でした。

しかし、会社の設立登記を行う際、より分かりやすく親しみやすい名称とするため、現在のひらがな表記「やまたまや」へと改めました。



山玉家

貴社の屋号は、創業者のご出身地に由来するのですね。

**社長** はい。その後、1996年（平成8年）に葬祭事業にも進出し、第1号店となる「アルコ会館 勿来」を出店しました。ちょうどこの頃、友人を介したご縁で、先代社長の娘である現在の常務取締役の家内と出会いました。当時は、自宅葬から会館葬へと移行しつつある過渡期でした。勿来の老舗葬儀社の長男だった私に、「ぜひ、うちの会館で葬儀を施行してもらえないか」と、依頼があったことが、ご縁の始まりです。

## 先代から帝王学を学ぶ。

### 営業力と会員制度、そして人と人とのつながりを大切にする企業文化が強み。

そうしますと、蛭田社長が当社に入社されたのはいつでしょうか。

**社長** 私は1998年（平成10年）に東京の『株式会社くらしの友』で1年間修行し、基本的な業務を習得した後いわきに戻り、翌1999年（平成11年）に弊社へ入社しました。

婿として入社したこともあり先代には大変かわいがっていただき、意思疎通も良好で、経営に関するさまざまなノウハウを教えていただきました。



取材風景 左から：常陽銀行 植田支店 佐藤 克夫支店長、大森 範久社長、広報室 主任 内海 愛美さま、蛭田 剛社長

その後、実家の葬儀社は生花店へと形態を変え弟が継承し、私は「やまたまや」に婿入りし、現在に至っています。

こうした自らの経験から、いつ、どこで、どのようなご縁が生まれるかわからないと、常に感じています。だからこそ、一期一会の精神を忘れず、一つひとつの出会いを大切にすることを心がけています。



アルコ会館 勿来

当初は経営の采配から現場の指揮までをすべて先代が担っていましたが、やがて現場での陣頭指揮を私に任せただけようになり、各部署を経験した後2022年（令和4年）12月に代表に就任いたしました。

先代から帝王学\*を学ばれ現場を采配するようになったのですね。

**社長** はい。先代からは、経営に関するさまざまなことを学びましたが、口癖は「絶対に1番になる」でした。

ただ、プライダル分野は競合が激しく、なかなか1位を取ることはできませんでした。

そこで、プライダルから葬儀もメインの柱に加えた事業へと舵を切りました。

.....

＊帝王学…リーダーが組織を統括し、存続させる為に身に付けるべき「全人格的な教養と知恵」。

競合が激しい中、他社と差別化を図られているポイントについてお聞かせください。

**社長** 弊社の強みは、「営業力」と「会員制度」、そして人と人とのつながりを大切にしてきた「企業文化」にあります。

まず、弊社の互助会であるセレモニーアルコ会員制度が、大きな特徴の一つです。

先代から引き継いだ社訓である「アルコ会員はやまたまやグループの源である 会員募集

なくして会社の発展なし」という言葉を抛り所に、毎年開催している新年度総会でも、社員とこの方針を共有・確認しています。

また、施設見学会や互助会制度を通じて、継続的に会員募集に取り組んでいます。その際には、誠実さを何より重んじ、お客さまはもちろん、社員も大切にする姿勢を貫いてきました。こうした、人と人とのつながりを基盤とした営業活動こそが、他社との差別化のポイントだと考えています。



新年度総会の風景

## 冠婚葬祭すべてに対応できる互助会を運営。 想いに寄り添う葬儀を大切に。

互助会制度を運営されているとのことですが、特徴についてお聞かせください。

**社長** 互助会は、お客さまとの長期的な関係づくりにもつながっており、「安心感の提供」を実現する仕組みです。

当地域には他社が運営する互助会が4つありますが、「冠婚葬祭のすべてに対応できる互助会」を運営しているのは弊社だけです。結婚式からご葬儀まで、すべてのセレモニーにご利用いただける点が大きな特徴です。

冠婚葬祭のすべてに適用できる互助会はお客さまにとって大きなメリットですね。

**社長** また、葬祭業は一般的に男性中心の業界と言われ

ますが、弊社のサービスは、約7割を占める女性スタッフの活躍によって支えられています。きめ細かなサービスを提供できることは大きな強みであり、サービス内容の質の高さはもちろん、「心のこめかた」の部分で他社との差別化を図っています。

人それぞれの人生がある以上、同じ葬儀は一つとしてごさいません。これまでも、そしてこれからも、故人の方やご親族の皆さまの想いに寄り添い、葬儀を執り行わせていただきます。

さらに、地域密着を基本とし、地域の行事やイベントにも積極的に参加しています。地域との交流・対話を大切にしながら、互助会の役割を果たしていきたいと考えています。

## テリトリーの中心は、いわき市から北茨城市。 ご縁を結びM&Aを推進し、業容を拡大。

葬儀中心の事業へと軸足を換えられましたが、現在のテリトリーやシェアについてお聞かせください。

**社長** 現在のテリトリーは、いわき市から北茨城市を

中心に、北は双葉郡楢葉町、南は茨城県高萩市から日立市までをカバーしています。テリトリー全体でのシェアは20～25%ですが、地元エリアに限定すると約50%を

占めています。また、7年前からいわき市内でNo.1のポジションを維持しています。

家族葬ホール「家族物語 平」は、本年4月にオープンしたばかりで、現在は施設見学会を定期的に行き、地域の皆さまに認知いただけるように邁進している段階にあります。今後は、より一層のシェア拡大を図っていきたくと考えています。

**店舗網はかなり広範囲に及びますが、どのようにして業容を拡大されてきたのでしょうか。**

**社長** 店舗網拡大の主な要因は、M&Aによるものです。これまでに5社を資本提携し、グループとしての事業規模を拡大してきました。

ただし、いずれのケースも、M&A専門会社や他社を介した事務的な合併ではありませんでした。人と人とのつながりを大切に、双方が納得したうえで話を進めてきた案件ばかりです。

例えば、高萩のやまとセレモニーの場合、オーナーが高齢となり、後継者も不在で今後の経営に悩んでいるという話を伺いました。そこで、オーナーと直接お会いして現在の状況やお気持ちを伺い、膝を交えて話し合いを重ねた結果、弊社グループの傘下に入ることにご同意いただいた経緯があります。



やまとセレモニーホール高萩

M&Aでグループの業容を拡大していく中で、留意されている点はございますでしょうか。

**社長** M&Aで別会社をグループに迎える際も、元々の屋号はできるだけ残すようにしています。これは「創業者の想いを大切にするように」という先代の教えによるものです。

また、社長職もすぐには交代させません。急に交代させてしまうと、従業員の方々の気持ちが追いつかなくなってしまうおそれがあるからです。長年かけて築かれた企業文化はそれぞれ異なり、企業の隅々にまで浸透しているため、一気に変えることはできません。

企業の変革には相応の時間が必要で、従業員とのコミュニケーションを重ねながら、企業理念を理解してもらうしかないと考えています。相手の気持ちに配慮しつつ、徐々に「やまたまや」に気持ちを向けてもらうことが大切です。

**企業文化が異なるため、どうしても組織の統合には時間を要しますね。**

**社長** 実は、かつて統合を急ぎ過ぎて失敗した経験があり、その反省から、現在は時間をかけて慎重に進めるようにしています。ただし、給与体系と休暇制度については、グループ全体で早い段階で統一します。まずは「やまたまやグループに入ってよかった」と感じてもらえる環境づくりが重要だと考えており、目先の採算が厳しい場面でも、焦らないことを心がけています。

また、取引先には今後もパートナーとしてお付き合いいただきたいと考えています。そのため、できる限りの配慮を行い、状況が安定してから条件面の交渉を進めるようにしています。

## 高校の新卒者と女性を中心とする中途採用で人材を確保。 コミュニケーションを大切に、働きやすい職場環境を目指す。

充実したサービスの提供にはやはり人材確保が前提となりますが、最近の採用状況はいかがでしょう。

**社長** 現在のところ大卒の応募はほとんどなく、高校の新卒採用に頼らざるを得ない状況です。例年2～3名を

採用しており、女性を中心に中途採用も行っています。

また、女性が多い職場ということもあり、女性が働きやすい環境づくりを目指しています。具体的には、休日の確保や時短勤務、育休・産休制度の整備など、

働き方改革を進めています。あわせて、「えるぼし」\*や「くるみん」\*の認定取得にも積極的に取り組んでいます。

.....

\*えるぼし…女性活躍推進法に基づき、行動計画の策定・届出などを行い、女性活躍の取り組み状況が優良と認められた事業主が厚生労働大臣から受ける認定制度。

\*くるみん…次世代育成支援対策推進法に基づき、行動計画を策定し、計画の目標達成や一定基準を満たした企業が、厚生労働大臣から「子育てサポート企業」の認定を受ける制度。

女性を中心に、中途採用も実施されているのですね。

**社長** 採用面では口コミによる入社が多く、社員が知人を紹介してくれるケースが増えています。最近では、ご夫婦で入社される例も見られます。

また、新年度総会では、優績社員の表彰や還元旅行の実施を通じて、社員をきちんと評価し、労をねぎらう

仕組みを設けています。働き甲斐を感じてもらえる評価制度づくりを進め、「社員一人ひとりをきちんと評価する会社」であることを大切にしています。

私は、「仕事はやりがいがあり、楽しくなければならぬ」と考えていますので、今後も若手や女性が働きやすい職場づくりに注力していきます。

新規採用が難しいと、既存の社員に長く勤務してもらえないですね。

**社長** 実際に退職される方の理由は「人間関係」が大半で、「仕事が大変だから」というケースはほとんどありません。そのため、各職場で人間関係に不穏な空気を感じた際には、すぐに常務取締役が出向き、その部署の長と面談して状況を確認しています。職場の雰囲気の悪さは、そのままお客さまに提供するサービスの質の低下に直結するからです。

社員と役員との距離感は、今はちょうど良いバランスになってきたと感じています。

以前はトップダウン型が主流でしたが、現在はボトムアップ型の時代だと考えていますので、社員の声をよく聞き、良いアイデアは率先して形にしていきたいと思っています。

一方で、単に優しいだけではなく、メリハリも大切です。是々非々の姿勢で社員としっかり向き合いながら、コミュニケーションを大切にしよう心がけています。



社員旅行 沖縄

50周年サンクスパーティー 余興ソーラン節

## 段階に応じた研修プログラムで人材を育成。 改善点やご提案に即時対応できる体制を整備。

専門性の高い業種と思われませんが、研修などは定期的に実施されているのでしょうか。

**社長** 新入社員研修をはじめ、職場・職位ごとの研修や外部委託の研修など、段階に応じたプログラムを用意し、さまざまな研修を行っています。

中でも特に重視しているのはOJTで、先輩社員が現場で丁寧に、実務を通じた指導を行っています。

また、Zoom（オンライン）による会議も活用しながら、全体ミーティングを月1回、各部署でのミーティングを

週1回実施しています。そこで抽出された課題には、各部署で早急に対応できる体制を整えています。

お客さまに提供するサービス面で、工夫されている取り組みなどはございますでしょうか。

**社長** 特に葬儀は専門性の高い業務であるため、お客さまアンケートの活用を力を入れています。

毎月30～40通ほど郵送でお寄せいただくアンケートには、できるだけ早く対応し、1週間以内をめどに、

すべてのお客さまのもとへお礼も兼ねてご挨拶に伺うようにしています。

また、改善点やご提案を頂戴した場合は、各部署で速やかに対応策を検討し、1件ごとにご訪問のうえ

フォローしています。

こうした取り組みを毎月積み重ねることで、サービスの質と社員の専門性向上につなげています。

## 葬儀形態の変化にも柔軟に対応。 社会のニーズにあわせた新たなサービスも検討中。

最近の環境の変化について、業務への影響はございますでしょうか。

**社長** 環境の変化への対応という点では、まず葬儀のあり方が変わってきています。

たとえば、「喪主は東京在住のご子息で、亡くなられたのはいわきにお住まいのご両親」といったケースが増えています。こうした背景から、墓じまいや相続に関するご相談も増加しており、今後は相続のご相談にも弊社で対応できる体制づくりを進めているところです。

また、高齢者の見守りとして、LINEを活用した安否確認の仕組みも検討しています。万一の際には、ご親戚の方へ通知が届くようなシステムで、地域に密着した弊社ならではのサービスになると考えています。このようなサービスは、いわき以外の地域でもニーズが高まっていると見込んでおり、今後、順次展開していきたいと思っています。

葬儀のスタイルの変化について、どのように対応されているのでしょうか。

**社長** コロナ禍以降、ご葬儀の簡素化が進み、家族葬が一般的になってきました。

そうした変化に対応するため、家族葬をコンセプトとした家族葬ホールの新ブランド「家族物語」の展開を進めています。現在、いわき市内では湯本エリアへの

出店を検討しており、将来的には街道沿いに複数店舗を構え、水戸やつくばといった茨城県内までカバーすることも視野に入れています。

葬儀の簡素化が定着してきているのですね。

**社長** ただ、いわきでは家族葬であっても、お盆には門前に灯籠を出す風習が残っています。そのため、「どなたかが亡くなられたことが周囲に自然と伝わる」一方で、新聞お悔み情報に掲載される方も多く、あとからお焼香に来られた方へのお返しなどの対応が、ご遺族のご負担になるケースが増えています。

こうした事態へのサポートを求めるお声も多くなっていることから、変化する状況やさまざまなニーズにお応えできるよう「やまたまや式家族葬」をご提案しております。家族や親族はもちろんのこと、友人や職場などのご縁がつながった、たくさんの方が訪れ弔う「ご縁が生きる」家族葬のカタチを考えました。



家族物語CM



家族物語 泉



家族物語 平



葬祭式場プロジェクションマッピング

## 先の震災を踏まえ「緊急時災害避難施設」として場所を提供。

地域への貢献活動についてお聞かせください。

**社長** 防災の面では、八幡台やまたまの所在地が高台にあることから、「緊急時災害避難施設」としていわき市で第1号の登録を受けました。

飲料水や太陽光による自家発電設備を備え、社員分も含め約100人分の非常食を常備しており、有事の際には炊き出しも可能です。地域の皆さまに施設を開放し、貢献していく姿勢を大切にしています。

平時は冠婚葬祭の会場として、非常時には地域の皆さまの避難拠点として機能することで、少しでも地域のお役に立てるよう努めています。



いわき市災害対策基金寄付受納式

先の東日本大震災を踏まえ、避難所として場所を提供されているんですね。

**社長** 先の東日本大震災では、いわき市は本震以上に、1か月後の4月11日に発生した余震による被害の方が

大きく、弊社の施設も全壊に近い損傷を受けました。

修繕には多額の費用がかかるため頭を悩ませていたところ、翌年に成人式を控えたお客さまから「成人式はどうなるのですか」といったお問合せを数多くいただきました。

こうした多くのお声に接し、「これは何としても建て替えなければならない」と強い使命感を抱き、建て替えに踏み切りました。完全復旧までにはおよそ3年を要しましたが、地域の皆さまのご支援もあり、無事に再建を果たすことができました。

その経験も踏まえ、現在は有事の際に地域の皆さまをお迎えできるよう、避難所として施設を開放する体制を整えています。



成人式の様子

## 社会のニーズに即応できる体制を整え、地域に密着し、お客さまの人生の節目に寄り添う。

貴社の経営理念についてお聞かせください。

**社長** 当社の経営理念は、「人として 人のために」です。互助の精神を大切にし、地域に密着してお客さまの人生の節目に寄り添うことで、取引先や社員にも満足してもらえる会社でありたいと考えています。

弊社は間もなく第51期の決算を迎えます。30年後のビジョンをしっかりと見据え、後継者へスムーズに事業承継することが課題です。これからも着実に歩みを進め、100年企業を目指していきます。

また、本業だけでなく周辺事業も含めた一体的な展開も視野に入れています。

そのためには、いわき市内だけでは持続的成長に限界があるため、人口が増加している地域へ進出し、「必要とされる場所」で事業を展開していきたいと考えています。

具体的には、茨城県への本格的な進出も検討しています。「常磐もの」\*と同様に、その地域の文化や風土に根ざした企業として、地域に特化したサービスを提供していく方針です。

.....

\*常磐もの…福島県の沿岸「常磐沖」で水揚げされる魚介類のこと。首都圏で高い評価を得ている。

読者へのメッセージをお願いいたします。

**社長** 今後は、墓じまい・樹木葬・海洋葬などの関連事業を一層強化し、社会のニーズに的確にお応えできる体制を整えることで、お客さまのご要望にお応えしてまいります。

また、葬儀だけでなく、終活サポートにおける相続や供養のことなどもお気軽にご相談いただける「よろず相談窓口」、

いわば「御用聞き」のような存在として、地域の皆さまのお役に立てる会社であり続けたいと考えています。

人は、どのようなご縁で結ばれるかわかりません。結婚式やご葬儀はもちろんのことお子さまが生まれてからの初節句や七五三、成人式やお葬式後の法要にいたるまで皆さまの人生の節目の大切なタイミングで、ぜひ「やまたまや」とご縁を結んでいただければ幸いです。



新年度総会 懇親会 集合写真

## COMPANY PROFILE



## やまたまやグループ

### 会社沿革

|                 |                                                   |                 |                                                |
|-----------------|---------------------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------|
| 1975年(昭和50年)12月 | 「有限会社山玉屋」設立                                       | 2005年(平成17年)11月 | プライダルタウン コリーナ バンケット「フォンターナ」をリニューアル             |
| 1976年(昭和51年)7月  | 「ウエディングパーク株式会社八幡台やまたまや」設立                         | 2008年(平成20年)3月  | 株式会社かげつと資本提携                                   |
| 1978年(昭和53年)8月  | 「有限会社山玉屋」を社名変更し、「総合仕出しセンター有限会社やまたまや」とする           | 2009年(平成21年)10月 | 総合葬祭会館「かげつ斎苑 別館」を新築開設                          |
| 1980年(昭和55年)3月  | 総合結婚式場「八幡台やまたまや」を新築開設                             | 11月             | 総合葬祭会館「プレステージしょうぶ苑」業務開始                        |
| 1986年(昭和61年)5月  | 通商産業大臣(当時)より「冠婚葬祭にかかわる前払式特定取引業」の認可                | 2010年(平成22年)7月  | プライダルタウン コリーナ バンケット「ラ・フェリシタ」を新築開設              |
| 1990年(平成2年)4月   | 運輸大臣・福島県知事より「一般旅行業 国内旅行業」の認可<br>旅行事業部「ベルニーツアーズ」開設 | 2012年(平成24年)8月  | 総合葬祭会館「アルコ会館 中郷」を新築開設                          |
| 12月             | 東北運輸局長より「一般貨物自動車運送事業」の認可                          | 2013年(平成25年)3月  | 「ウエディングパーク株式会社八幡台やまたまや」を社名変更し「株式会社八幡台やまたまや」とする |
| 1992年(平成4年)10月  | 総合結婚式場「八幡台やまたまや」をリニューアルオープン                       | 4月              | 「プライダルタウン コリーナ」をリニューアルオープン                     |
| 1995年(平成7年)11月  | 資本金2,000万円に増資(ウエディングパーク株式会社八幡台やまたまや)              | 2014年(平成26年)2月  | コンベンションホール「八幡台やまたまや」を建て替え、竣工                   |
| 12月             | 資本金300万円に増資(総合仕出しセンター有限会社やまたまや)                   | 2015年(平成27年)3月  | 総合葬祭会館「アルコ会館 錦」業務開始                            |
| 1996年(平成8年)9月   | 総合葬祭会館「アルコ会館 勿来」を新築開設                             | 2018年(平成30年)9月  | 総合葬祭会館「三本木会館」業務開始                              |
| 1999年(平成11年)7月  | 総合葬祭会館「アルコ会館 泉」を新築開設                              | 2019年(令和元年)9月   | 株式会社うおしんと資本提携                                  |
| 2000年(平成12年)7月  | 総合葬祭会館「アルコ会館 北茨城」を新築開設                            | 2020年(令和2年)11月  | 総合葬祭会館「アルコ会館 勿来」を建て替え、竣工                       |
| 2001年(平成13年)9月  | 総合結婚式場「プライダルタウン コリーナ」を新築開設                        | 2021年(令和3年)7月   | 有限会社本多葬祭と資本提携                                  |
| 2003年(平成15年)9月  | 無農薬・有機栽培の健康食品事業を開始                                | 2022年(令和4年)12月  | 代表取締役 蛭田 剛 就任                                  |
| 2004年(平成16年)9月  | 総合葬祭会館「アルコ会館 いわき」を新築開設                            | 2023年(令和5年)9月   | 有限会社ティ・エム・シィと資本提携                              |
|                 |                                                   | 2024年(令和6年)1月   | 家族葬用ホールの名称を「家族物語」に統一                           |
|                 |                                                   | 2月              | 株式会社やまとセレモニーと資本提携                              |
|                 |                                                   | 7月              | 「家族物語 泉」を新築開設                                  |
|                 |                                                   | 2026年(令和8年)3月   | 「家族物語 平」を新築開設                                  |

### 会社概要

株式会社 八幡台やまたまや

代表取締役社長 蛭田 剛

本社 〒974-8261

福島県いわき市植田町八幡台6番地

T E L 0246-62-6777

設立 1976年(昭和51年)7月

資本金 2,000万円

事業内容 冠婚葬祭互助会経済産業大臣許可(互)第2029号  
総合結婚式場・貸衣装  
総合葬祭・法要・仕出し



本社事務所外観